



## リーダー研修会 (平成27年10月30日 神奈川) 事例発表より

講演：常務取締役 遊佐憲一様

### 会社概要

本社所在地：神奈川県大和市柳橋 5-15-1  
代表取締役：小川武  
設立：昭和25年6月  
資本金：6000万円  
車両台数：82台  
従業員数：210名  
グリーン経営認証登録：平成16年3月  
(藤沢・栃木の各営業所)

## 早くから取組んで良かったと実感した「グリーン経営認証」

自動車部品を主な輸送品目に、協力企業をあわせ毎日170台ほどが稼働する同社。認証制度が始まる前から環境問題を重視し、ハードを整える傍らドライバー教育に多くの時間を割き、エコドライブへの意識を継続させてきたと遊佐常務は話します。エコドライブ活動コンクールで優秀な成績を取めた企業へ、その手法、を教わりに出向くなど熱心に活動する同社の事例を、遊佐常務からご紹介いただきました。

### 環境も「当然の時代」と認識し、取得

当社が「グリーン経営認証」を取得したのは平成16年ですが、その数年前から大気汚染や地球温暖化が社会問題として顕在化し、取引先の環境意識も高まってきていました。とりわけトラックによる排気ガス問題は早くから指摘されており、運送事業者にとって環境対策は安全対策と同様に積極的に取組んでいくことが当然であると考えようになりました。そんな折「グリーン経営認証制度」を知り、これを取得することで環境対策を本当の意味で実践的な活動ができるものと確信し、15年度にキックオフ、16年3月に取得しました。

### アイデアを駆使して、エコドライブを体で覚えてもらう

初めに取組んだのは、低公害車の導入やデジタコ、ドラレコの導入など、ハード面の整備でした。しかし、それだけの取組みでは不完全です。ハードを使うのはドライバーであり、ドライバーの教育なくして環境活動が成立しないことは明白でした。そこで、ドライバーにエコドライブを体で覚えてもらえることをコンセプトとした教育、啓蒙活動を10年以上にわたって取組んできました。

#### ① 運転評価を考課制度に反映

ドライバー教育には主にデジタコの分析帳票（ドライバー別燃費、運転評価点、アイドリング時間）を活用しています。当社のドライバーは複数の班に分かれて業務を行っており、ドライバー別の燃費帳票から班別の実績を作成し、班会議で議論させています。各自が運



2016年01月	燃費帳票	乗務員別燃費	燃費 (L/100km)
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9
10	10	10	10

2016年01月	燃費帳票	運転評価点 (月間)	燃費 (L/100km)
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9
10	10	10	10

2016年01月	燃費帳票	アイドリング時間	燃費 (L/100km)
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9
10	10	10	10

デジタコの帳票を教育に活用

転を振り返り、仲間同士で率直な意見交換を行うことで改善のヒントを見つけるきっかけになっています。次に運転評価点の帳票は考課制度へ反映させています。さらに年間を通じて100点を取得した者を表彰するなど、エコドライブへの関心を継続させる仕組みとすることで、当初は平均97点を超えるくらいでしたが、ここ最近では平均99点の水準を維持するなど、効果ははっきりしています。アイドリング時間の帳票についても考課制度に反映させて表彰も行っています。当社ではアイドリング時間ゼロを目標に掲げており、以前は目標達成者が3割に満たなかったのが考課制度に採用したことで9割を超えるようになりました。これらの成果は考課制度によるところが大きいですが、デジタコによる見える化でドライバーが過去と比較し、反省が容易にできるようになったことも奏功しています。

## ② ドライバー自身が車両状態を的確に把握

車両の点検整備については、ドライバー自身にその状態を的確に把握してほしいとの考えから、ドライバーが自主的に行うことにポイントを置いています。環境に悪影響を及ぼす現象については「環境四現象点検表」に基づき毎月点検し、異常があればすぐに整備管理者を通して修理を行うようにしています。また、各種オイルやオイルエレメントの交換、エアクリーナーの清掃などは、社内基準に基づき予定表を作成、掲示することで、ドライバーが確実に整備できるようにしています。



「環境四現象点検表」に基づく点検の実施

## ③ 講習会にはドライバーが知りたいと思う情報を組み込む



エコドライブ講習会は全員参加が原則

エコドライブ講習会は3～4年サイクルで実施しています。全員参加を第一に掲げエコドライブの定着を図っています。開催ごとに必ずアンケートを取り、ドライバーが学びたいと思っている事柄を多く採り入れ、興味を持って学べる内容にしています。開始当初は「デジタコの点数が良くなる方法を知りたい」などテクニックに関する回答が多かったのが、回を重ねるごとに「環境への取組みにおけるエコドライブの大切さを知り、継続していきたい」など、エコドライブの浸透を感じさせる回答が多くなってきており、良い傾向にあると自負しています。

## ④ 環境保全活動強化月間と企業訪問

毎年6月を環境保全活動強化月間に定め、のぼりや横断幕を掲示してより一層の意識付けを図りながらさまざまな活動を行っています。たとえば、デジタコの記録とは別に運行ごとの燃費を手書きで記録させて燃費意識を高めたり、デジタコの評価が思わしくないドライバーが落ちこぼれないよう、管理者や同僚が協力してアドバイスする「再講習」を行ったりします。班対抗のアイドリングストップ競技会開催や営業所対抗の省燃費運転競技会などの行事を行ったのもこの期間中でした。こうした企画は、ドライバーにエコドライブの定着を図ることが狙いであり、実施後にはアンケートを取って次の企画の参考にします。

もうひとつユニークな取組みは「エコドライブ活動コンクール」表彰企業の訪問です。最優秀賞受賞企業がどのような活動を行っているのかを直接お聞きし、自らの参考とさせていただきます。各社多忙な中でも快く迎えていただき、今後のヒントになるお話をいただきました。



のぼりや横断幕で環境保全活動強化月間を意識付け



これまでの環境保全活動強化月間の主な取組み

## エコドライブは「絶対的なもの」ではない

以上のような内容を10年以上にわたり取組んだ結果、すべての車種において燃費は軒並み向上し、特にトレーラについては、平成26年度は15年度と比較し19%も向上しました。全体では、燃料使用量は年間で10万ℓ以上、CO<sub>2</sub>排出量は26万8000kg、金額換算では約1000万円が削減できるなど非常に大きな成果となり、早期から取組んで本当に良かったと感じています。燃費については引き続き高いレベルで推移し点検整備も自主性をもって取組んでいることはエコドライブ活動の意識が定着した証であり、その結果としてエコドライブ活動コンクールの優秀賞を受賞することができました。

	燃費			燃料使用量		
	H15	H26	向上	H15	H26	削減
4t	5.54	5.88	6%	35,000	33,000	-2,000ℓ
15t	3.64	3.90	7%	1,070,000	999,000	-71,000ℓ
トレーラ	2.58	3.05	19%	197,000	166,000	-31,000ℓ
						-104,000ℓ

10年の活動で非常に大きな成果が得られた

数値の改善は会社にとって有意義で計り知れない経済効果があります。それはドライバーの力により得られるものであり、ドライバーの環境意識が低下しないような施策を講じることが大切です。ドライバーにとってエコドライブは、安全運転とは違い「絶対的なもの」ではありません。だからこそ意識の定着が重要で、これからも継続的に注力すべき点と捉えています。今後は当社の協力企業にもエコドライブを推奨するとともに、「グリーン経営認証」の取得を目指す企業には惜しみないバックアップをしていきたいと思っています。